

参加者：
秋元、伊藤、小海、田中、土田、
中島、並木、安田、吉野、

BMW RS CLUB

かわらばん

Jun 4, '06

栗山村で旨いテンプラと
手打ち蕎麦を満喫しました
かわらばん；中島邦雄 挿絵；小倉玲子

6/4

東北道から日光有料道路へ入ると、目にも鮮やかな木々の緑が眼前に広がりを見せ、やや曇っていた空も明るくなり始め、雲の切れ間から、周囲の山々が緑の中にその姿を現し始めました。左手には渓流が岩を噛むように流れています。もう六月なのに肌寒いような朝でしたが「いろは坂」を上る程に周囲の空気が一層冷えてきた感じで、朝方に降ったのか幾らか路面が濡れています。突き当たりの赤い大鳥居をくぐってを左折すると、輝くような中禅寺湖の湖面が現れました。今がヒメマスの解禁時期で、それを狙うとおぼしき釣人が大勢見られます。釣好きの吉野さんの話では、脂の乗った今の時期のヒメマスは、薄造りにして食べると最高だそうですが、彼も話に聞いているだけで食べたことはないとか。一度試してみたいもので、いかにもキリット冷えた地酒に合いそう感じがしてきます。11時頃に戦場ヶ原の駐車場に着くと、一般道で来たという秋元さんが待っていました。薄日が差し始め目の前には男体山が袖を広げたように聳えていました。春の遅いこの辺りではやっと芽吹きを始めた木々も見られ、リックを背負った中高年ハイカーの姿も大勢見受けられました。

今年は天候不順な日々が多く四月のツーリングは雨で流れ、五月の一泊も雨で誘い合わせて車での西伊豆行きでした。今回も長期予報では雨の予想。ところが1~2日前から日光方面は曇りから晴天に変わったではありませんか。当日も曇り空の薄ら寒い朝で半信半疑でバイクを出しました。9時半を回ったところで「蓮田SA」を八人で出発し「宇都宮IC」へと向かいました。予報では晴れに向かう筈なのに相変わらず雲が厚く、それを信じて走っているとナント霧のような雨が降り始めました。しかし余程気流でも悪かったのか栃木の手前で明るくなり、カッパも着ないで飛ばしていると、パトカーに捕まっている奴を発見、一瞬緊張が走りました。我々を追ってた訳でもないでしょうが、パトカーは宇都宮ICでUターンをして戻って行きました。こんな田舎っぺのボリ公に捕まつてはいけません。クラブでも一人が免許取り消し、更に一人が免停中です。おお~怖いね~~。そして前述のように緑濃い中を走り、いろは坂から中禅寺湖を抜け晴天の戦場ヶ原に到着。蓮田SAから1時間半程でした。

バイクを止めて座っていると、後の茂みからネコヤナギの穂のようなものが風に乗って飛び回り、顔に絡み付いて来ました。11時半に腰を上げすぐ先の山王林道へ入ると、道の左右にはシラカバの林が暫く続き、いかにも高原に来たことを感じます。この林道はきついカーブが連続する細い道で、先導の安田さんから無線で対向車の連絡が入りますが、それでも怖くてカーブに入る度にクラクションを鳴らしての走行でした。ある狭いカーブでは5~6台のバスや車両が止まって、我々の走行をやり過ごす程で、雨が多かったせいか所々に砂が浮き上がり、肝を冷やしながら峠を下りました。「あ~あ嫌な道だったね~~」とは小海さんの弁で実感です。無事に峠を下り間欠泉の見える川俣温泉に到着です。周囲は薄紫色の桐の花と、20~25センチ程の椎の実状のトチの花が若葉の先に咲き、それが川を見下ろす崖に繁茂していました。

橋の上から下を覗くと崖に沿って階段が切られ、川沿いの小屋から勢いよく湯気が上がっていました。まさに湯治場です。「鬼平犯科帳」で有名な池波正太郎の「藤枝梅安」シリーズの中に、金で人を殺す仕掛け人が大怪我をして、人気のない湯治場で体を癒しながら秘策を練る話が有りますが、昔は此処もそんな処だったろうかと思われました。時代小説の読み過ぎかな?

突き当りを左へ行くと夫婦淵などの奥鬼怒へ、我々は右の川治方面へ向かいます。満々と水をたたえた川俣湖の吊り橋を渡り目指すは栗山村のそば處「北の路」です。前回来た時に露天風呂に入りましたが、その時にバイクを停めた処で私だけがガス補給をしました。その店の人が言うには「北の路」の蕎麦を食べたら他の店のは食べられないとか。それ程の店へ行きました。以前に入った奥の大部屋では法事をやっているようで、外には何台かのバスも停まり黒装束の老若男女が大勢いました。我々はテーブルにつきましたが、地図を片手に来た相模ナンバーの夫婦は「今日はもう蕎麦が無いから」と断られました。

蕎麦を待っているとボリ公が現れ、裏手に有った物をデジカメで撮り、事情聴取をしていました。話の具合ではフキノトウを盗掘して誰かに指されたようです。我々の食べたキャラブキもそれだったかも知れません。岩魚の禁漁でもしたかと話していただけに、「それくらい良いじゃないの~」とは誰かの弁。でも人の畑から取ってきたら、これは駄目だと賑やかでした。行者ニンニク、フキノトウ、こごみなど7種類の山菜のテンプラと、手打ち蕎麦に舌鼓を打ちました。飲めないのが心残りでしたが誰もが満足でした。箸休めにしてくれた山菜オコワも旨く嬉しい心遣いでした。皆さんは既にご存じでしょうが、未だ行かれたことの無い方は、是非とも一度お試しください。電話は0288-97-1472ですが、混み合う店です、予約をお勧めします。

雨は大丈夫そうですが霧が出始めました。帰途は遙か下を覗くと時には鹿が居たりする六万尺橋を抜ける有料道路を避け、大笹牧場を左折して山道を今市へ下りました。蕎麦屋から大笹牧場への道は霧が出て周囲が霞み、どこか幽玄の世界にでも入り込んだかのようでした。細い山道ですが車の流れは良く、快調に走って町に入り其処で殆どのメンバーがガス補給をしました。日光有料道路の今市へ入る迄はやや渋滞気味でしたが、その後は順調で東北道の「大谷PA」で一休みしましたが、これで商売になるかと思える程にガラガラ状態でした。やや混み出した東北道を「スピードには気をつけようね」と



いう話し合いもすっかりと忘れたかのように、各車がすっ飛びいつか自分も一緒になって後を追っていました。そんな中をネイキッドの国産車が女性を乗せてタンデム走行をしていましたが、我々に負けじと右に左に走り見ていた方が心配になるほどでした。こういうのを見ると、矢張りタンデムの際には一層の安全運転が必須条件だと痛感させられた、そんな帰りの高速でした。安全に長く元気に乗りたいのは誰しも同じだと思います。全車が無事に朝と同じ「蓮田SA」に帰りつき、此処で解散となりました。久々にバイクで走り楽しい一日を送りました。天気にも恵まれ距離もそこそこで、だいぶ年齢的に長距離がきつくなつた我々には嬉しい選択でした。今回の幹事の伊藤さん。いろいろご苦労様でした。

土田さんが五月の一泊ツーリングの際の、大きな集合写真や数々のスナップ写真をお持ち下さいました。私がツーリング・ケースを付けていたので、皆さんのお預かりしてきました。参加された方々の写真をこの「かわらばん」と一緒にお送りします。毎回、素晴らしい写真をお撮り下さり、焼付け引伸ばしなど厄介な事でしょう。メンバーになり代わり御礼申し上げます。

そろそろ梅雨入りになりますが、七月は秋元さんの計画で走りに出ます。なんとか梅雨の晴れ間の一日を願っています。平均年齢が上がっています。長距離の時には最初から行かないというメンバーも居ます。そのあたりもヨロシクお願いします。

五月の連休中に怪我をした会長の北島さんは、中目黒駅に近い東京共済病院に入院中です。5月26日(金)に齊川、安田、私の3人でお見舞いに行きました。前日に初めて歩いたそうで元気にしていましたが、もう暫くは時間がかかりそうです。一日も早い全快をクラブ員一同祈っております。